

関係各位

東京学芸大学附属高等学校 校長 原田 和雄



東京学芸大学附属高等学校 第 12 回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第 12 回公開研究大会を下記のとおり開催いたします。

是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題 「新学習指導要領とその先にある教育 ～Scientific Universal Logic for Education の試み～」

【主題設定理由】

平成 25 年度、高等学校学習指導要領が完全実施され、学校は実際の授業の蓄積が求められる段階となりました。授業実践にあたり、この学習指導要領策定の背景にある現在、そして将来の日本社会及びその教育の課題を踏まえ、その目的を再度確認・理解することが学校現場に求められています。

昨今の社会状況や世界との接点を踏まえて、また、学習指導要領を踏まえた教育改革の潮流も視野に入れつつ、今後の高等学校での授業の方法、あり方を考える場として、この公開研究大会を開催したいと思います。

本公開研究大会では、今回の学習指導要領に基づく授業実践と教科・科目連携による試行的授業実践を公開させていただきます。関連なご意見を頂戴したいと思います。

2. 期日 平成 25 年 11 月 30 日（土）

3. 場所 東京学芸大学附属高等学校

住所：〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5 Tel：03-3421-5151 Fax：03-3421-5152

4. 時程 8:40 9:00 9:30 10:40 11:45 12:35 13:15 14:45 15:50

受付	全体会	生徒研究 発表会	公開授業 I	公開授業 II	昼食	研究 協議会 I	研究 協議会 II
----	-----	-------------	-----------	------------	----	-------------	--------------

5. 参加費

無料（資料により実費をいただく場合もあります。）

6. 参加申込

参加ご希望の方は本校ホームページ（<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>）、または Fax にて 11 月 1 日（金）までにお申し込みください。なお、当日の昼食をご希望の方は 1000 円にてご用意いたします。申込時にフォーム上でご希望の旨をお伝えください。

7. 内容

生徒研究発表会（9:30～10:20）

① 海外活動を伴う生徒研究発表（SULE）

② 「総合的な学習の時間」中間発表

※ SULE とは “Scientific Universal Logic for Education” の略語です。

これは本校が提案する、すべての生徒に科学的判断力に裏打ちされた行動力を育てるための教育理念です。

公開授業Ⅰ（10:40～11:30） ＊は公開授業Ⅱと連続で実施する授業

教科	科目	授業者	タイトル	概要
国語	国語総合	金指 紀彦	ボトムアップ型の授業	「反転授業」など世界の新たな動きも踏まえ、授業を構想する上での導入の位置づけを再考する。初読後に自らの課題を設定し、その問題意識に基づいて精読していくことは、主体的な読みにつながるのではないか。
地歴	世界史 A	山川 志保	東アジア世界の様相～19世紀後半の中国・朝鮮半島情勢を中心に～	19世紀後半から20世紀にかけての東アジア世界は既に1年次の日本史Aでも学習しており、これを踏まえて世界史A側から「資料」を使ったアプローチを試みたいと思う。既に1学期の段階で諷刺画・音楽・パンフレット・絵画等を利用した授業を展開しているので、これを踏まえて、「文字資料」を中心に今回の授業は構成する予定である。
数学	数学 II	大谷 晋	面積を求める	区分求積法で面積を求めることを通じて、微分と積分のつながりを考える。
理科	生物基礎	小境 久美子	生態系での物質の循環	河川の生態系の物質循環に、生物群集がどのようにかかわっているのかについて、実験データや各種資料をもとに考察する。
理科	化学基礎	坂井 英夫	電池コンクール(2年 E 組)	10月から酸化還元反応の単元で学んだことを生かして、優れた電池をつくることを目標とする。その工夫を発表し、電池の性能を評価するコンクール形式の授業を实践し、「科学的なものの見方と考え方を共有する」方法を实践したい。
*保健 体育	体育	齋藤 祐一	「マラソン記録会」に向けて	ただ走るだけでなく、科学的な視点から自分自身の身体をとらえ、安全に体力を高められる持久走の学習を展開する。
*芸術	工芸 I	神田 春菜	練り込み技法を用いたマグカップの制作	一学期に積み上げた練り込みの粘土ブロックから、マグカップを5～7客制作する。これまで作ってきたマグカップを鑑賞し、自分自身の制作を振り返り、問題点や改善点を把握する。それらを踏まえ、より使いやすいマグカップを目指し、成形に取り組む。
*芸術	書道 I	荒井 一浩	テーマ学習 ～唐の四大家、蘭亭序、曹全碑そして高野切～	各自が選択したテーマに基づき学習を進め、それをグループ学習、まとめ学習、発表学習へと発展的に展開していく。有為な学びの形成と総合的な書についての理解を深めることを目指す。
英語	コミュニケーション 英語 I	石崎 智子	妥協点を探る議論のための英語表現	「価値判断の基準と、行動の選択」に関する考察に基づき、合意を目的としない議論のテーマを設定する。個人の文化的背景や社会的立場が異なれば優先事項が変わる。そこでいかに判断の基準や行動が変わるかを理解し、「前向きな妥協」をめざす話し合いを英語で試みる。
*公民 理科 (SULE)	現代社会 地学	加納 隆徳 齋藤 洋輔	リスク社会と防災～政府は市民の命を守るために合意形成をできるのか～	南海トラフにおける地震と津波災害をテーマに、生徒は行政役と様々な立場の市民役にわかれて、お互いでコンセンサスを形成していく。防災対策を提案する行政役も、意思決定に参加する市民役も、どのような防災対策を行い、命を守っていくのかを考える。政府はどこまで国民の生命を災害から守らねばならないのだろうか。
地歴 理科 (SULE)	日本史 A 地学基礎	安井 崇 田中 義洋	富士山宝永大爆発～噴火の実相と復興の歴史～	富士山のもっとも最近の噴火で、人々の生活に長期にわたり大きな影響を与えた宝永大爆発を素材に、地歴科と理科の視点から多角的な考察を試みる。
*情報 国語 理科 (SULE)	情報 現代文 物理基礎	森棟 隆一 日渡 正行 市原 光太郎	コピーを書く	かっこよい響きのコトバを並べるのがコピーづくりではない。本授業では、物理実験の振り返りを題材として、ボディコピーづくりを体験する。言語活動の充実を図り授業を展開していく。

公開授業Ⅱ（11:45～12:35） ＊は公開授業Ⅰから連続で実施している授業

教科	科目	授業者	タイトル	概要
国語	国語総合	六谷 明美	史伝を読む	史伝の話の内容を読み取りながら、古代中国の歴史のおもしろさを味わい、登場人物の生き方について考えさせる。
地歴	日本史 A	藤野 敦	明治憲法「上諭」から読み取る国家像	デジタルアーカイブを活用し、原史料からの読み取り作業と生徒間の協議を通じ、明治憲法の構造と、国家が目指す国家像、一方で大正デモクラシーへ向かう過程を考える授業構成と生徒活動を目指す。
数学	数学 I	祖慶 良謙	3次方程式の解の公式を作る	数学Ⅱを見据えて授業を構成する。3次方程式を、2次方程式の解の公式を利用して解くことを通じて、虚数や3乗根を導入する。天下り的に虚数や3乗根を導入数するのではなく、その必要性を生徒が感じるような授業を構成することを目指す。
理科	化学基礎	坂井 英夫	電池コンクール(2年 D 組)	※公開授業Ⅰと同じ内容の授業ですが、クラスが異なります。
*保健 体育	体育	齋藤 祐一	「マラソン記録会」に向けて	※公開授業Ⅰを参照
*芸術	工芸 I	神田 春菜	練り込み技法を用いたマグカップの制作	※公開授業Ⅰを参照
*芸術	書道 I	荒井 一浩	テーマ学習 ～唐の四大家、蘭亭序、曹全碑そして高野切～	※公開授業Ⅰを参照
英語	コミュニケーション 英語 I	高崎 朋彦	英語を英語で教えるための工夫	生徒の理解を確認するには訳読中心の授業で日本語を用いるのが効果的とされてきたが、英語の授業は英語で行うことを基本とする場合、どのようにすれば生徒の理解を教師が確認できるか、アウトプットの活動をいくつか紹介する。
家庭 国語 (SULE)	家庭基礎 古典 B	阿部 睦子 塚越 健一朗	古典の食を味わう	伊勢物語に登場する乾飯(かれいひ)の学習をきっかけとし、現代版乾飯の試食を通して食の豊かさについて考える。
*公民 理科 (SULE)	現代社会 地学	加納 隆徳 齋藤 洋輔	リスク社会と防災～政府は市民の命を守るために合意形成をできるのか～	※公開授業Ⅰを参照
*情報 国語 理科 (SULE)	情報 現代文 物理基礎	森棟 隆一 日渡 正行 市原 光太郎	コピーを書く	※公開授業Ⅰを参照

研究協議会 I (13:15~14:35)

No	科目	テーマ	提案者	助言講師	所属
1	国語	主体的に読むことへの方策	国語科		
2	地歴	資料の活用とその評価について	地歴科	村瀬 正幸	国立教育政策研究所教育課程調査官
3	公民 地学	合意形成力の育成を目指す討論学習と合意形成の実際	加納 隆徳 齋藤 洋輔	唐木 清志	筑波大学大学院准教授
4	数学	数学を見いだす活動を促す授業とその評価の提案 - 数学の概念の誕生に着目して -	数学科	長尾 篤志	文部科学省初等中等教育局視学官
5	理科	新学習指導要領とその先にある教育 - 理科教育における普遍的な課題 -	理科	長谷川 正	東京学芸大学教授
6	保健 体育	体育における主観的尺度と客観的尺度	齋藤 祐一	有吉 正博	元東京学芸大学教授
7	英語	新学習指導要領のめざす言語活動について	英語科	日臺 滋之	玉川大学教授
8	家庭	食生活の科学と文化	阿部 睦子 塚越 健一朗	福家 眞也	東京学芸大学特任教授
9	工芸	A表現「(2)社会と工芸」の題材について	神田 春菜	水野谷 憲郎	元淑徳短期大学教授
10	書道	総合的に書について理解するとはどういうことか	荒井 一浩		

研究協議会 II (14:45~15:50)

シンポジウム「新学習指導要領とその先にある教育～Scientific Universal Logic for Educationの試み～」

研究協議会 II はシンポジウム形式で、今回の学習指導要領が教育の将来像をどのように想定して策定されているか、さらにその先に何をみつめているのかを踏まえ、今後の私たちの教育実践の方向性を考えていきたいと思います。

当日はパネリストとして多田孝志先生（目白大学教授）、村瀬正幸先生（国立教育政策研究所調査官）、唐木清志先生（筑波大学大学院准教授）にご登壇頂き、21世紀型学力、評価等の理念と求められる力、学校と地域や社会の接点の意義と効用についてなどの観点からお話し頂きます。また、本校SULE委員会からは「知的総合力を持ったリーダーの育成」と「科学的理解に基づいて行動できる市民の育成」を目指した教育実践について、報告させて頂き、皆様のご指導をいただきたく存じます。

8. 東京学芸大学附属高等学校へのアクセス

電車 ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩 15 分



・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20 分



- バス（東急バス） ・【渋谷駅】南口 22 番のりば 「野沢龍雲寺循環」行き
 23 番のりば 「東京医療センター」行き、または「多摩川駅」行き
 ・【目黒駅】西口 2 番のりば 「三軒茶屋」行き
 ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き ※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩 1 分

公開研に関する情報等は随時本校公式 web ページ (<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>) に掲載します。

第 12 回公開教育研究大会 参加申込書(Fax 用)

Fax : 03-3421-5152

フリガナ	
学校名, 所属名等	
所在地 住所等	〒 (-) 住所 : TEL (- -) FAX (- -)
連絡先 E-mail	@

フリガナ お名前	ご担当教科 (科目)	参加予定分科会	昼食申込 (1,000 円)
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無
		授 業 I : 授 業 II : 協 議 会 I :	有 ・ 無

※11月1日(金)までに、ホームページまたはFaxよりお申し込みください。

東京学芸大学附属高等学校 研究部

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5 Tel : 03-3421-5151 Fax : 03-3421-5152

(お問い合わせ) E-mail : kenkyubu@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp (研究部) まで